

# 新たな学習環境を考える 「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業とは？

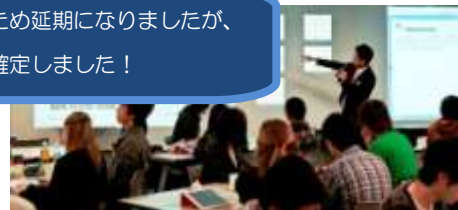
主催：札幌学院大学 FD センター

日時：2013年3月8日（金）13:30～15:00

会場：B202教室 （事前の申し込みは不要です）

対象：本学の教職員

大雪のため延期になりましたが、  
日程が確定しました！



昨年の中央教育審議会答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』では、次のように、これからの時代が求める人材を育成するためには授業スタイルを「アクティブ・ラーニング」に転換することが必要であると指摘しています。

従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。

「アクティブ・ラーニング」とは、課題発見・解決学習、体験学習、調査学習等を意味しますが、教室内でのグループ討議、プレゼンテーション、相互評価等も有効な方法とされています。これを授業に取り入れることで、専門知識の定着やその応用的な活用を促すことはもちろん、汎用的技能（ジェネリック・スキル）の育成に有効とされています。つまり、学生の就業力を育成するという観点からも有用な授業スタイルとされています。

では、この授業スタイルとは「いったい、どのようなものなのか?」、「どのような教室環境が求められるのか?」、「教員はどのような役割を果たすべきか?」、「どのような組織的支援が必要なのか?」。

今回のFD研究会は、小樽商科大学の“アクティブ・ラーニング教室”での教育実践に学び、あるいは実際に情報ツールを体験しながら、新たな学びの環境について考えてみたいと思います。

## プログラム概要：

13:30～14:30 報告「小樽商科大学アクティブ・ラーニング教室」（質疑応答を含みます）

辻 義人氏（小樽商科大学 教育開発センター）

14:30～15:00 デモンストレーション（実際にツールを使って新たな学びを体験します）

株式会社ウチダシステムソリューション

## 獲得目標：

- ・ 「アクティブ・ラーニング」の教育効果について認識を深める
- ・ 「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業のイメージを描くことができる
- ・ 「アクティブ・ラーニング」を促す教室環境の整備について考えるきっかけを得る

## 講師紹介：

- ・ 辻 義人氏

小樽商科大学教育開発センター所属。同大のFD推進を担う。専門は教育工学、教育心理学。「参加体験協同型のワークショップをeラーニングで可能にするための統合的研究」（平成18～21年度科学研究費（基盤研究）等、新たな教育方法開発に関する研究に従事。

問い合わせ先：FDセンター事務局（教務課・内線3238）

現在、理事会では新たな教室環境の整備を検討しています。これを具体化するため、FD委員会では新たな教室に対するニーズ調査を行っています（結果は裏面をご覧ください）。なお、2013年度の私学助成予算（文部科学省）では、大学教育の質向上に組織を挙げて取り組む大学に対して人件費や施設整備費、コンピューター機器購入費等を一体的に補助する「私大等改革総合支援事業」（178億円の特別枠）が計上されています。

## 新たな教室に対するニーズ調査結果（速報）

- 2012年11月7日から11月30日まで、「教室環境の整備に関する調査」を実施しました。19名から回答がありました。そのいくつかを抜粋します。

### Q. 現行の問題点（教育方法の改善に取り組もうとする際に感じる制約とは？）

- ☞ 70名ほどの受講者数でグループワークなどをさせるのに適切な教室がほとんどない。
- ☞ スクリーンに図版などを写しつつ板書ができる教室が少ない。（スクリーンが黒板を隠してしまう）
- ☞ 学生にとって、ゼミと実習と研究法が有機的につながっていないように感じる。「何のためにそれを学ぶのか」が実感を持ってとらえられていない。プロジェクト型の授業をつくり、具体的イメージをもって探究する中で学習目標に近づくようにできないだろうか。しかし、それをひとりの教員が個人のゼミの中で取り組むのは難しい。複数の教員が連携するようなカリキュラムづくりは検討できないだろうか。

### Q. 個人としての要望（より高い学習成果を引き出すために必要な教室環境とは？）

- ☞ 移動可能な椅子と机が設置された大・中教室があるとよい。
- ☞ スクリーンを黒板の両サイドに設置し、PCも2台にして、違うものが写せられればよい。
- ☞ 壁には、書いたり、紙を貼り付けたり、液晶プロジェクターのスクリーンにできる白板がほしい。
- ☞ グループ毎に発表できるように携帯用プロジェクターを数台用意してほしい。
- ☞ 携帯用PC（固定ではなく移動して使用できる。部屋内貸出）が数十台必要。
- ☞ 入口はガラス張りで、中が見えることが重要。
- ☞ 教室環境は重視していない。教員がどういう意図で授業を開講し、何を学んで欲しいかを熱意を持って学生に伝え、周到な準備をして授業に臨むことが大切。様々な機器があると、それらを用いることで授業内容を束縛してしまう。固定机でもグループワークは可能であり、プロジェクターがなくても授業運営はできる（もちろん分野により事情が異なると思うが）
- ☞ 演習室が狭く、ゼミナールでのワークショップに適していない。理想としてはC301のような、周囲にネット環境を持ったパソコンを配置し、中心に机と椅子を設置するスタイル。机と椅子が移動しやすければなおよい。

### Q. 組織的な支援策（学習の質を向上させるために大学全体として講ずべき対応とは？）

- ☞ 授業の工夫や悩みなどを話し合える時間的余裕がほしい。
- ☞ 現行の課題を解決するためにもう一人の自分が欲しいほど。現在、実習に社会人大学生等が自発的に関わっている。教員の労力が軽減されるとともに、教員とは異なった知識の提供により教育上良い影響を与えている。

- 2012年12月19日から2013年1月11日まで「新たな教室環境に対する希望調査アンケート」を実施しました。「例えば、次のような教室が整備された場合、使用してみたいと思いますか？」という調査です。24名から回答があり、58科目での利用希望が寄せられました。下図は、履修者人数別に科目を分類し、その利用希望数を示したものです。

